



コバトン&さいたまっち



令和元年度病害虫発生予察注意報第4号

令和元年7月8日
埼玉県病害虫防除所

チャハマキ第1世代成虫の発生が、平年より非常に多く発生しています。
このため、第2世代幼虫の多発が予想され、翌年の新芽に影響を及ぼすことが懸念されます。茶園での発生状況に注意して防除を徹底しましょう。

作物名 チャ

病害虫名 チャハマキ

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) チャハマキ越冬世代成虫の誘殺数は平年より多く、巡回調査でも第1世代幼虫の発生量が、平年より多かった。
- (2) 茶業研究所(入間市)の予察灯調査によると、6月第6半旬までのチャハマキ第1世代成虫の誘殺数は、平年(平成21年から平成30年までの平均)の約1.5倍となっている。
- (3) 現地のフェロモントラップ調査でも、チャハマキ第1世代成虫の誘殺数は平年より多くなっている。
- (4) これらのことから、第2世代幼虫の発生量、発生面積はさらに増加すると予想され、翌年の新芽の生育への影響が懸念される。
- (5) 今後の多発を防ぐためには、第2世代幼虫の発生密度を抑えることが重要である。

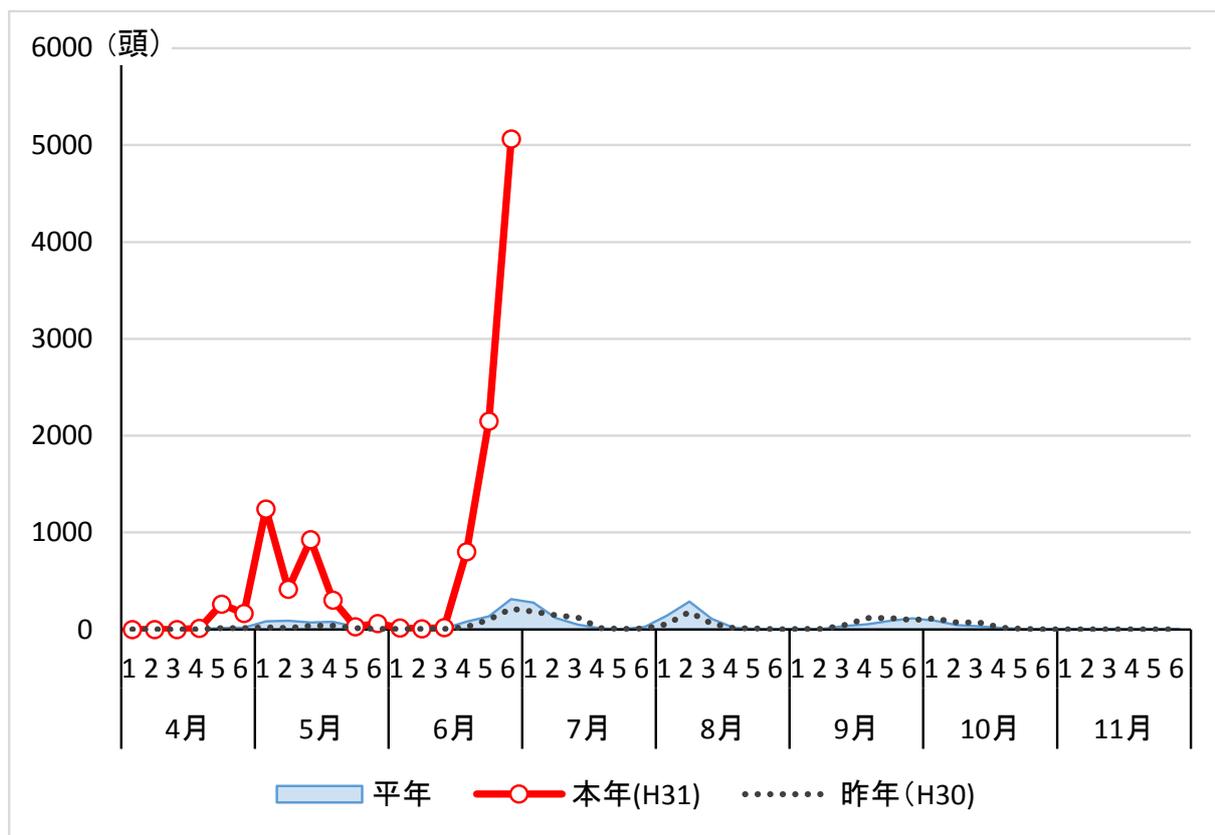


図 チャハマキの予察灯への誘殺数 (茶業研究所)

3 防除対策

- (1) 薬剤による防除適期は発蛾最盛期の7～10日後である。
- (2) 予察灯及びフェロモントラップ調査による第1世代成虫発蛾最盛期は6月末～7月初旬であり、防除適期は7月第2半旬～第3半旬と予想される。ただし、地域やほ場によるばらつきがあるため、ほ場での発生状況を確認し、若齢幼虫期をねらって薬剤散布を行う。
- (3) 深刈り等更新処理は、生息密度を低減させることができる。
- (4) 病害虫防除所では、ハマキムシ類の4月からのフェロモントラップによる誘殺数のデータをホームページ上に掲載しているので、薬剤散布時期の参考として第2世代以降の発生動向を確認する。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/date20141211.html>

表2 チャハマキの防除薬剤例

薬剤名	IRAC コード	使用時期	使用 回数
エンセダン乳剤	1 B	最終摘採後～萌芽前まで 但し、摘採 60 日前まで	1
MR. ジョーカー水和剤	3 A	摘採 2 1 日前まで	2
スピノエースフロアブル	5	摘採 7 日前まで	2
サブリーナフロアブル	1 1 A	発生初期 摘採 7 日前まで	—
アタブロン乳剤	1 5	摘採 1 4 日前まで	2
ロムダンフロアブル	1 8	摘採 1 4 日前まで	2
テッパン液剤	2 8	摘採 3 日前まで	1

(使用基準は令和元年 7 月 5 日現在)

4 問合わせ先

埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/saishintourokujouhou.html?mode=preview>

※埼玉県農薬危害防止運動実施中（令和元年 5 月 1 日～ 8 月 3 1 日）